

奉祝

報

むすび

び

敬宮愛子内親王殿下御誕生

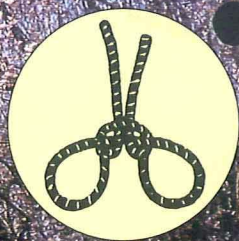
第 26 号

平成14年3月吉日

○発行所○
栃木県高神職心すび会
会報編集委員会

○発行人○
星野 芳典

○印刷所○
御中堂印刷所



目次

会長挨拶 2
 40周年実行委員長挨拶 3
 植樹祭・初穂曳 4
 会員神社紹介「今宮神社」 5
 特集「宇都宮二荒山神社記念大祭」 6

特集「益子焼陶板みこし」 8
 平成13年度事業報告 9
 新役員・幹事・各種委員会名簿 10
 新入会員紹介 11
 退会者・ご結婚・ご誕生 12



会長挨拶

栃木県青年神職むすび会

会長 星野芳典

先ず以て皇室におかれましては昨年十二月一日に皇太子・妃両殿下に待望の新宮様であられます、敬宮愛子内親王殿下の御誕生があり、心中より慶祝の念を申し上げますと共に、健やかなる御成長をお祈り致します。

昨年は内外において様々な事件が人々の心を脅かせ、安心して生活をする事ができず、今後の未来において不安を募らせる世情となりましたが、年末に来てやっと日本では明るい一筋の光が差し込んで来たように思われました。

そんな中、年も改まり、今年当むすび会においては、創立四十周年という佳節の時を迎えました。昨年より先輩諸兄皆様方には周年記念事業に向けまし

て、色々と御依頼を申し上げました所、心良く御協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。会員一丸となりまして今、記念事業に向けて、準備を進めている所でございます。世の人々の神社離れが（特に若い世代を中心として）見受けられます。それを如何にして歯止めを掛け、魅力ある神社を再興し、人々の心の拠り所としての立場を築き上げて行かなければならないか。

それが我々青年神職としての使命と思ひ、心に刻み込んで取り組んで行きたい所存でございます。

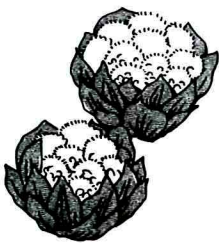
今まで、先輩方が培われて来た事を再度思い起こし、神社と氏子（崇敬者）が一体となって地域を盛り上げ、明るく思いや

りのある住み良い社会作りに努めて行かなければならないと思っております。

折りしも今年には神宮大麻煥発一三〇年の節目の年でもございます。都市部を中心として、その頒布数がここ数年減体傾向にあり、全国でも様々な対策を講じておりますが、依然として歯止めを掛ける事が出来ずにあります。そこで、今年には栃木県護国神社においても、御鎮座一三〇年と云う佳節の年であるという事で、記念事業の第一弾と致しまして、福祉活動を兼ねて英霊の御前で雅楽のチャリティーコンサートを開催し、老若男女を問わず神社へ足を運んで戴くと共に、神宮大麻を始め御札を神棚にお祀り戴く意義を説明案

内し、教化活動を行おうと思っております。我々青年神職が何をどこまでやれるかは判りませんが、これを期に本腰を入れて増体運動に取り組んで行きたいと思ひます。

最後に、我々会員まだまだ若輩者であり、何かと御迷惑をお掛け致します事があるかと思ひますが、寛大なる御心にてお取り計らい下さいますよう、又今後も更なる御指導を仰ぎたく宜しくお願い申し上げます。





創立四十周年に向けて

栃木県青年神職むすび会

四十周年実行委員長 小林 靖

靖

この度、栃木県青年神職むすび会創立四十周年にあたり、私共が取り組んでおります各記念事業に関しては、本会諸兄を始め県内神社界の先輩諸賢の多大なるご理解ご協力を戴いておりますことに、先ず以つて心より感謝を申し上げます。

畏き辺りにおかせられましては、敬宮愛子内親王殿下の御誕生というこの上もない御慶事をお迎えになり、誠にめでたく、御皇室の弥栄を言寿ぎ奉り、新宮様の健やかなる御成長をお祈り致します。

さて、むすび会が発足してから四十年の間、世の中は大きく変わってきました。特に、所謂個人主義の蔓延が言われて久しい昨今、今ではそれが（皮肉を

込めて）“発達”さえして来た様に見受けられます。

祖父母・両親・子の世代間の孤立も目立ちます。子供達に食事時の絵を描かせると、「テーブルにぼつんと独り、食事を摂っている姿」や、「母親の姿はあつても、子に背を向けている」と言った絵が多いそうです。即ち家族の団欒がなくなっていることを示しています。

今年度より、学校週休二日制が実施されることになりました。政府としては、学校での勉強では学べない事柄を、地域社会への奉仕を通じて体得させ、自分も地域社会の中の一員であることを自覚させる狙いをお持ちのようです。

しかし乍ら、未だ充分なる子

供達の受け入れ体制を整えているとは言えません。彼らの行き場は学習塾でいいのでしょうか。ゲームセンターでいいのでしょうか。このような時局の中、氏神様にあるいは地域社会の中心的な役割を持つお社に奉仕する立場にある私たち青年神職に、何かできないだろうか。

むすび会創立四十周年を迎えるにあたり、我々は考え話し合いを致しました。今回の大きな事業の一つ、雅楽・舞のチャリティーコンサートは“祈り”人間にとつて最も尊厳ある行為を取り上げることとし、広く人々に親しみを持ち易いことを考慮して実施致します。

更に、県内神社年間祭禮暦の刊行につきましては、目的や樂

しみを持たせるべく、現在鋭意取り進めております。四季折々の季節と相俟つて行われる祭典を、楽しみにしている多くの方々への一助となれば幸いです。『一つの終わりは次への始まり』私達むすび会は、今回四十周年記念事業をもとに、更なる前進をする決意を新たに致した所でございます。

結びにあたって、会員各位はもとより、県内神社関係者各位、神社庁の皆様、取り分けチャリティーコンサート開催にひとかたならぬご理解ご協力を戴きました、日光東照宮、栃木縣護國神社、古峰神社の皆様、夫々に心より篤く御礼申し上げますと共に、尚一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

植樹祭

八坂神社 禰宜 葎 田 真 彦

栃木県青年神職むすび会の恒例行事である植樹祭を平成十三年の十月二十三日に実施致しました。本年度は、宇河支部の平出雷電神社並びに、今泉八坂神社両社に真榊を植樹させていただきました。

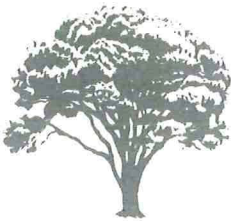
当日神社庁神殿にて植樹報告祭が齋主鷲宮神社宮司菱沼副会長、祭員として瀧尾神社田中禰宜、神明宮神山権禰宜奉仕により星野会長以下参加員が参列し斎行されました。

祭典が終了し参拝の後、平出雷電神社江部禰宜のご案内により兼務社である星宮神社へと移動し植樹を行いました。次に私、葎田がご奉仕しております今泉八坂神社へと向かい総代さんの出迎えを受け、本殿南に植樹を行い休憩を取らせていただきました。

夕刻よりは、同じく恒例となっております月見親睦会が催さ

れました。会員同士の親睦を深めると共に今回は、来期へと迫っております青年神職むすび会創立四十周年記念大会、事業についての話が多くの話題になり、とても有意義な親睦会となりました。

今年の植樹は二社でしたが県内のお社へ参拝をする時、むすび会により植樹された真榊が見事な枝葉を広げ大きく成長しているのを見ると、先輩諸兄より続くむすび会の歴史の重さを実感いたします。今回の真榊も根を付け大きく育つ事を願います。まだ二回目の参加ですが今後とも参加させていただきたいと思



神宮 初穂曳奉仕記

須賀神社 権禰宜 沼 部 博 成

平成十三年「第三十回初穂曳」に、むすび会より護國神社の稲寿氏と私の二名で奉仕させて戴いた。私はこの行事には初参加だったので、奉仕内容等については、自分なりの漠然としたイメージを持って伊勢の地に向かった。結論から言うと、全てが私の想像していたものを遥かに上回る規模の盛大な神賑い行事であった。

十月十五日、正午からの神宮会館大講堂に於いての結団式終了後、バスに乗り曳車の出発地点である商店街に移動。市長の挨拶に続き、奉仕の要領を説明され、快晴の爽やかな空気の中で、大量の初穂をのせた曳車が外宮めぐして威風堂々と動き出した。「エンヤー、エンヤー」という、あまり聞き慣れないが非常に親しみやすい掛け声と共に、神領民と称される大勢の奉仕者が曳車の二本の長い綱を握る。曳き方がユニークだ。皆で綱を上下に揺すぶったり、綱と綱を引き合わせたり離したり。「今

年の神領民は元気がないな！」曳者の指揮官がスピーカーを通して喝をいれる。皆笑いながら、楽しく、しかし真剣に奉仕している姿を見て、私は何かを感じざるを得なかった。「何か」とは、ここに集う人々の神恩に対する感謝の心である。日本人が米を主食として生活を営んでいることは言うまでもないが、まさにその初穂を感謝の心をもって神に献納するんだ！という唯一筋の思いが緊々と伝わってきた。改めて日本人特有の素晴らしい気質を感じることができた。

一行は十五時過ぎに無事外宮に到着し各々が曳車から降りされた初穂を手に取り、これを五大殿におさめた。最後に参加者全員が外宮を参拝し、このノスタルジックな一大行事は幕を閉じた。最後に参加の機会を与えて戴いた関係者各位と伊勢の地にて最後までお世話を下さった稲先輩に対し、心から御礼を申し上げる次第である。



会員神社紹介

今宮神社

禰 宜 金子 立

【名称】

今宮神社

【鎮座地】

塩谷郡氏家町馬場四三

【祭神】

素盞鳴命 豊城入彦命
大己貴命 事代主命

【由緒・沿革】

平安時代の後冷泉天皇の御代康平三年（一〇六〇）素盞鳴尊を主祭神として創立する。「下野国誌」に宇都宮朝綱の三男公頼始めて氏家に城を築きし時に、己が産土神たる宇都宮明神を合祀して城中守護としたとある。その後正安二年（一三〇〇）勝山城主公宗の崇敬により社殿を改築し、北は塩原の三依より南

は高根沢まで広がる領内の二十四郷に毎年交宮繕祭礼を行い、その社殿荘厳にして崇敬厚かりきと、今宮明神の祭礼記録である「今宮祭祀録」にある。

当社は歴史と文化と自然に彩られた氏家町中央部のやや北よりに位置しています。国道四号線と国道二九三号線が神社の裏手に通っており、氏家総鎮守の神様として近在近郷より数多くの参拝者が一年を通じここを訪れます。

神社の入口には高さ六、五メートルの大きな石鳥居がありま

両脇には高さ三メートルほどの灯籠が社殿に至るまで整然と並んでおり、参道を進んでゆくと木造白木造りの楼門がそびえ立っています。

町指定文化財の楼門は文化八年（一六六三）の造営で、間口三間五尺・奥行二間の入母屋造。屋根は銅板葺きで二軒繁垂木。白木十二脚の重厚な楼門です。

楼門をくぐると左手には手水舎・神札授与所・社務所・祈禱者待合所が並んでおり、右手には当社の象徴的な御神木「大公孫樹」があります。樹齢七〇〇年の公孫樹は高さ二十五メートル・幹幅二、五メートルの大きさで「栃木県銘木百撰」「町指定天然記念物」に選ばれています。「大公孫樹」よりさらに参道を進んでゆくと、いよいよ御社殿が荘厳な姿を見せてくれます。現在の拝殿は、昭和二年に建てられた建物で拝殿内部は四十八畳敷きの広さです。幣殿は平成三年に改修されたもので、拝殿・幣殿共に白木造りとなっています。

本殿は「氏家記録伝」によれば、寛文三年（一六六三）明神

御社殿建の記録があるところから、現存する本殿の、造営はこのときに行われたようです。建物形式は間口三間・奥行二間の三間社流れ造りで、屋根は銅板平葺きで軒は二重繁垂木です。木部全体は朱塗りとされていますが、彫刻等は極彩色が施されています。

また境内には、大きな造建築物だけではなく拝殿内部に飾られている「天保飢饉絵馬」「今宮神社句額」（共に町指定文化財）「今宮明神祭礼絵馬」等を始め、神社や町の歴史を記す奉納物が数多く残されています。

今宮神社の賑わいは、お正月・節分・七五三参りなどの年中行事を始め、十月十九日の例祭・渡御祭と七月三十一日の茅の輪くぐり「千灯万灯祭」が特に境内を賑わせてくれます。またお祭り以外でも、十月に行われる「奉納剣道大会」には近隣三町の小中学校が神社に集まり熱戦を広げ、十一月上旬に行われる御神木「大公孫樹」のライトアップも期間中に県内各地より多くの参拝者が訪れます。

特集

■宇都宮二荒山神社記念大祭

■益子焼陶板みこし

宇都宮二荒山神社

東國御治定二〇五〇年記念大祭

—平成十三年四月十九日 齋行—

二荒山神社 権禰宜 佐藤智則



奉幣行列

二荒山神社の御祭神豊城入彦命は、日本書紀に第十代崇神天皇の第一皇子さまで、崇神天皇四八（皇紀六一一）年四月十九日、東國御治定の詔によって下向され、上毛野（現 群馬）・下毛野（現 栃木）両君の始祖になられたと記されております。皇紀二六六一年の本年（平成十三年）は、御祭神が崇神天皇より詔を賜ってから二〇五〇年を迎える慶節に当り、広く氏子崇敬者の皆様と共に今日の繁栄の基となった御祭神の聖業を奉讃申し上げ、臨時大祭を齋行致しました。

又、鎮撫神徳の故事により、次代を担う青少年の健全育成と世情の安定の願いを込めて、平

和祈願も併せて御奉仕致しました。この故事は、次の様なものです。

天正十七年北条氏が宇都宮地方をも我が握中に納めようと一万五千余騎を以て関東平野を北進して来た事に対して、宇都宮勢はこれを雀宮付近で迎え討ったが、味方の謀反により旗色が悪くなり総軍敗退と見られました。

しかし、宇都宮の方より神



奉幣行列

風が吹き、白衣の装束を着た百余名が、『宇都宮大明神よりの御加勢なり』と言って、手に御幣を持つて北条勢に雪崩込んで行ったので、北条勢は不意を突かれて総崩れになり、宇都宮勢は陣容を立て直し無事に城内に帰れたそうです。宇都宮に帰ってみると、不思議にも宇都宮大明神の御扉は、未社に至るまで全てが真一文字に開かれ、御神前の



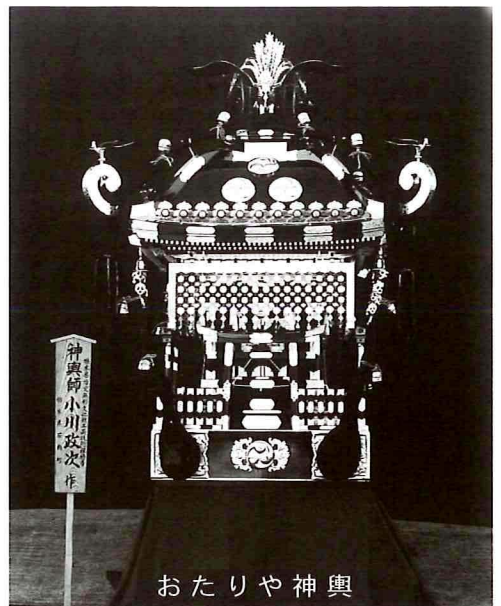
稚児行列

御幣には、鮮血が滲んでいて、御神馬も大汗を流し疲れきった様子であったそうです。

宇都宮勢一同、これは明神様の御加護と御神威に感謝し、御神馬や太刀を奉納

したと伝えられております。この故事にちなみ、記念行事として、二荒山神社神輿保存会・氏子町会の方々の御協力により奉幣・稚児行列を行いました。奉幣行列は、県内若手神職の栃木県青年神職むすび会の方々二十名及び二荒山神社宮司以下神職・総代等の奉仕によって神社を発し、帰りに御橋から県内の就学前のお子様二〇〇名奉仕による稚児行列を従えて明神様に帰って来ると云う行事です。

記念事業として、鹽竈神社より鹽竈桜の御恵贈を受け、総代の相村氏より薄墨桜を献木戴き、宇都宮名物七木・七水・八河原



おたりや神輿

の内、二荒山神社にあった「鹽竈の桜」と「薄墨桜」を再興植樹を致し、現存していた「明神の井」とともに二荒山神社境内の宇都宮の名木と名水が甦りました。

さらに、老朽化しておりました、おたりや神輿の新調が神輿師小川氏の御厚情により立派に完成致し、同年十一月二十三日新調奉告祭を盛大ながら厳粛に斎行致しました。

東國御治定二〇五〇年記念の行事、各事業に御協力賜りました皆々様にこの場をお借り致し厚く御礼申し上げます。

益子焼で「陶板みこし」

—アジサイ彩り陶芸の里をPR—

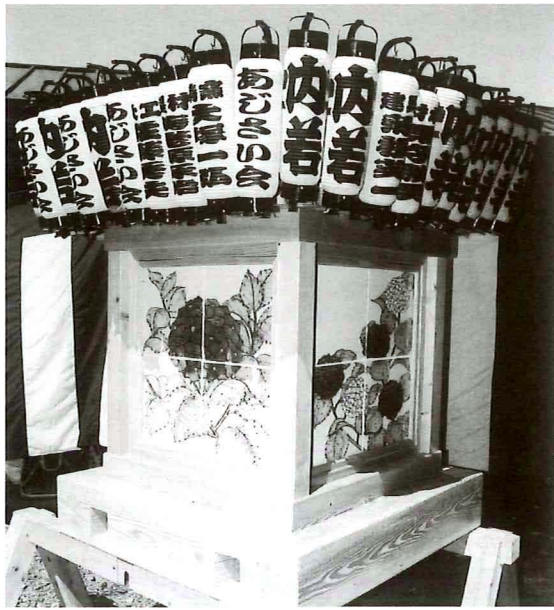
鹿島神社 宮司 小幡 正之

益子町に鎮座する鹿島神社と太平神社の氏子青年会（あじさい会）の有志が中心となって、氏子の手づくりによる、ちよつと変わった神輿が完成して奉納されました。

益子町の祇園祭（鹿島神社境内末社八坂神社例祭）は、本社

神輿はあるものの、勢いよく担いで渡御する祭ではなく、昔から氏子地区の若衆が屋台や山車を中心に盛り上げ、老若男女で賑わってきました。

また、太平神社の境内山林には十八年前から「憩いの紫陽花公園を造ろう」と、やはりあじ



さい会が中心となり、約七千株のアジサイを植栽してきました。六月下旬からは現在でも「あじさい祭り」が開催され、特に六月の大祓・茅の輪くぐり神事は、夜中まで大勢の出入りがありますが、この祭りをより賑やかに行いたいと云

う願いと、地元益子をよりPRしたいと云う思いにより、益子焼「陶板大神輿」が完成したわけです。

製作にあたっては、このような時代なのでお金をなるべくかけないで、手作りで造ろうと云う事となり、氏子の協力です。

まず、材料は地元の材木店で相談したところ、赤松の台座や桧木の木枠を寄贈して頂き、会員の中の大工・建具職が手間で協力を仰ぎ、追い込み作業の頃は、宮司や会員が日中の仕事を終えてからの夜業仕事で取りかかり、数三カ月の期間で完成しました。

この陶板大神輿は、縦横約一、三m、台座を含めた高さは約一、五m、上部には祭り提灯（弓張提灯）を飾り付け、四方の側面には縦横七二cm、一枚の重さが二十kgの陶板を四枚はめ込みました。（陶板だけで三二〇kgの重さとなります。）

益子町は、古くから陶芸が盛んで、益子焼は今から約一五〇年前の、一八五三年に陶祖大塚啓三郎氏が益子で窯を築いたの

が始めとされており、今では四百件の窯元があり、全国的にも知られていることから、地元の特産品をこの神輿に取り入れようと考えたわけです。そこで、会員に陶芸家（職人）がいるのでアジサイを彩ったデザインに依頼をして、淡いピンク色、鮮やかな青色、清らかな白色を使って描いて頂きました。

この陶板大神輿のお披露目は、六月三十日に行い、鹿島神社から太平神社までの道路約三〇〇mを歩行者天国にして、練り歩きました。当日は、梅雨空のものと雨の降りしきる日となりましたが、地元はもとより宇都宮・真岡など周辺地区からも祭り好きが大勢集まり百名ほどの担ぎ手で道路をうめつくしました。

参加者からは、「益子らしい神輿で愛着がもてます。益子の新しい名物になれば」との声や「とにかく重い」などと息をきらしながらの感想がありました。このような神事を通して、地元の発展・神社の興隆につながれば何よりだと思っております。今後、恒例行事にして行きたいと考えております。

平成十三年度 栃木県青年神職むすび会事業報告

- 4月18日 第五十三回 神道青年全国協議会定例総会
本社本庁
- 4月26日 第一回 神青協一都七県協議会定例会議
東京 櫻田神社
- 5月10日 定例総会
宇都宮二荒山神社
- 5月25日 那須御用邸勤労奉仕（神社庁教化委員会合同）
那須御用邸
- 6月25～26日 神青協一都七県協議会総会
茨城県北茨城市
- 7月3日 役員、幹事、正副委員長会議
宇都宮二荒山神社
- 8月21～22日 行法、男体山登拝研修会
日光二荒山神社中宮祠
本社本庁
- 8月27～28日 神青協夏期セミナー
本社本庁
- 8月28日 第二回 神青協一都七県協議会定例会議
本社本庁
- 9月21日 氏子青年会合同ゴルフ大会
矢板市
- 10月15日 伊勢神宮初穂曳き
伊勢神宮外宮
- 10月23日 植樹祭
八坂神社、雷電神社
-
- 10月30日 第三回 神青協一都七県協議会定例会議
靖国会館
- 11月20日 昇級者祝賀会、退会者慰労会並びに忘年会
那須温泉 自在荘
- 12月3日 第四回 神青協一都七県協議会定例会議
東京都神社庁
- 1月16日 役員、幹事、正副委員長会議
栃木県護国神社
- 2月14日 役員、幹事、正副委員長会議
栃木県護国神社
- 2月19日 第五回 神青協一都七県協議会定例会議
本社本庁
- 2月27日 京都府神道青年会創立五十周年式典
京都府京都市
- 3月13～14日 神道青年全国協議会中央研修会
愛媛県松山市
- 3月25日 鎮守の森からのメッセージ
本社本庁
- 第二回 神社関係定期広報誌コンテスト表彰式

平成十四年度 むすび会役員・幹事氏名

【役員】

会長	星野 芳典	乃木神社	権禰宜
副会長	菱沼 至広	鷺宮神社	宮 司
副会長	人見 文治	温泉神社	禰 宜
事務局長	伊原 弘之	日・二荒山神社	権禰宜
會計	荒井 和宏	字・二荒山神社	権禰宜
庶務	香取 正義	日・二荒山神社	権禰宜
監事	堀口 邦夫	栃木県神社庁	主 事
監事	篠田 薫	古峯神社	権禰宜
監事	小幡 正之	鹿島神社	宮 司
議長	宇賀神直人	大田原神社	禰 宜

【幹事】

宇河支部	葭田 真彦	八坂神社	禰 宜
字・二荒山神社	野崎 正之		権禰宜
芳賀支部	豫風 浩行	大前神社	権禰宜
塩谷支部	伊藤 史展	塩釜神社	権禰宜
北那須・南那須支部	滝口 貴史	八坂神社	権禰宜
上都賀支部	福田 財大	今宮神社	権禰宜
日・二荒山神社	香取 正義		権禰宜
古峯神社	大河原 肇		権禰宜
下都賀支部	刀川 治久	磐裂根裂神社	禰 宜
安佐・足利支部	尾花 唯	神明神社	禰 宜
唐沢山神社	佐野由希子	唐沢山神社	権禰宜

むすび会四十周年実行委員会

四十周年実行委員長 小林 靖 三宮神社 宮 司
 四十周年特別会計 野崎 正之 字・二荒山神社 権禰宜

【募金特別委員会】

委員長	葭田 真彦	八坂神社	禰 宜
副委員長	町井 康祐	日・二荒山神社	権禰宜
副委員長	刀川 治久	磐裂根裂神社	禰 宜

【教化・事業企画委員会】

委員長	田中 教文	滝尾神社	禰 宜
副委員長	福田 財大	今宮神社	権禰宜
副委員長	石川 安一	安住神社	権禰宜

【記念誌編集委員会】

委員長	佐藤 智則	字・二荒山神社	権禰宜
副委員長	佐藤 洋誠	日・二荒山神社	権禰宜
副委員長	中里 元彦	中村八幡宮	禰 宜

【式典委員会】

委員長	豫風 浩行	大前神社	権禰宜
副委員長	滝口 貴史	八坂神社	権禰宜
副委員長	金子 宗人	字・二荒山神社	権禰宜

新入会員紹介



早乙女 和 弘

住所：下都賀郡壬生町七ツ石二〇二
 生年月日：昭和44年6月23日
 奉務先：太平山神社
 趣味・特技：ゴルフ・日曜大工
 座右の銘：全ての人に平らかな心で
 好きな異性のタイプ：十年前の
 私の妻

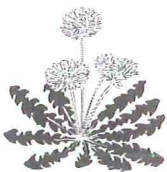
この度、青年神職むすび会の
 記念の年に、入会できた事を心
 より御礼申し上げます。今後の
 むすび会、神社の発展に少しで
 も協力できれば、と思っておりますので諸先輩方の御指導を宜
 しくお願い致します。



櫻 木 琢 也

住所：鹿沼市緑町二一一
 三十八 A一〇一
 生年月日：昭和48年7月29日
 奉務先：古峯神社
 趣味・特技：音楽鑑賞・楽器演
 奏・パソコン自作
 好きな異性のタイプ：気兼ねな
 く接してくれる女性

まだまだ若輩者でございます
 が、少しでも社会の役にたてる
 よう、自分なりにできることを
 精一杯努力したいと思います。

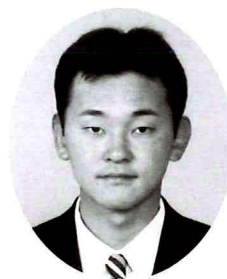


小 林 宣 彦

住所：栃木市平井町六六一
 生年月日：昭和49年3月12日
 奉務先：太平山神社
 趣味・特技：凧笛を吹いたり、
 時にはゴルフなどもします。
 好きな異性のタイプ：心の温い人
 座右の銘：抱負
 「学びて時におこなうに、何
 の逡巡することあらん」

私どもの社には、次のような
 奉仕心得がある。
 神風の添うにや舞の袖すずし
 高天の原もよそならぬ舎奉
 仕をしていると、涼やかな風が
 神々の御心徳のように袖をゆら
 していく。高天の原は、どこに
 でも「ここにも」あるのだな！

今流に言えば、教化は時と場所
 を選ばない。するべき時はいま
 だ、ということだそうです。私
 も、そうありたいと思っております。



櫻 木 理 人

住所：足利市緑町一丁目三二八一
 生年月日：昭和52年1月29日
 奉務先：八雲神社
 趣味・特技：テニス・スキー・
 ドライブ・野球
 座右の銘：千里の道も一歩から
 好きな異性のタイプ：明るく健
 康的な人

神明に奉仕すると共に、足利
 の伝統的な祭りの復興に宮司を
 補佐し努力したい。



退会者

氏 名：小島 敬
 奉務先：八幡宮神社
 生年月日：昭和36年4月12日

祝ご結婚

氏 名：滝 口 貴史
 奉務先：八坂神社
 挙式日時：平成13年4月15日
 式場：あすなる会館
 新婦氏名：路子（みちこ）
 本人のコメント：いつも笑いの
 ある、楽しい家庭を築いてい
 きたい。
 奥さんのコメント：三人四脚で
 がんばります。

氏 名：石川 安一
 奉務先：安住神社
 挙式日時：平成14年3月8日
 式場：安住神社参集殿
 新婦氏名：貴美子（きみこ）
 本人のコメント：笑いの絶えな
 い家庭にしたいです。
 奥さんより一言：神職というの
 も全く知らない私が神主のも
 とに嫁ぎ、うまくやれるのか
 ちよつと心配な面もあります

が、安一さんはじめ皆様方が
 温かく見守って下さるので、
 いつまでも共に助け合つて明
 るい家庭を築きたいと思つて
 おります。

祝ご誕生

氏 名：國友 和広
 奉務先：中嶋神社
 挙式日時：平成14年3月10日
 式場：栃木県護国神社
 新婦氏名：令子（れいこ）
 本人のコメント：二人で力を合
 わせて、幸せな家庭を築きた
 いと思ひます。
 奥さんのコメント：頑張ります
 ので、よろしく願ひします。

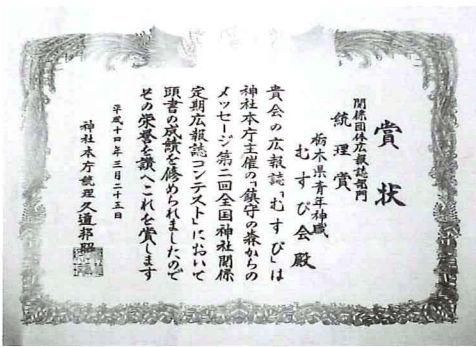
氏 名：滝 口 貴史
 第一子氏名：智弘（ともひろ）
 生年月日：平成13年10月5日
 親からの希望：健康でたくまし
 く育つてほしい。
 * * * * *
 氏 名：篠原 祐一
 第一子氏名：咲陽（さくや）
 生年月日：平成13年1月21日
 親からの希望：「巧言令色、鮮
 矣人」外見や口先で飾ること
 のない、仁を識る人になつて
 くれればと願ひしています。

「第二回全国神社関係 定期広報誌コンテスト」 統理賞

三月二十五日、神社本庁主催
 の「鎮守の森からのメッセージ
 『第二回全国神社関係定期広報
 誌コンテスト』関係団体広報誌
 部門」において統理賞を頂くこ
 とが出来ました。これも歴代会
 長、広報委員長、印刷所様をは
 じめ多くの諸先輩のおかげで頂
 くことが出来ましたことを心よ
 り感謝申し上げます。
 最後に、諸先輩方には今後も
 御指導御鞭撻のほどを頂きたく
 宜しく御願ひ申し上げます。

編集後記

はじめに、敬宮愛子内親王殿
 下の御誕生を寿ぎ、お健やかな
 御成長を、心からお祈り申し上
 げます。
 本年も会報むすび第二十六号
 を発行できます事を厚く御礼申
 上げます。
 これも偏に関係者各位の皆様
 方の御協力と、広告協賛を賜り
 ました各社の皆様方の御蔭と心
 より感謝申し上げます。
 栃木県青年神職むすび会は本
 年度より、星野会長の下、新体
 制となり編集委員も殆どが初め
 ての経験で、前任の方々の助言
 を戴きながら何とか発行に至り
 ました。御関係の皆様には何か
 と御迷惑をお掛け致しましたこ
 とをこの場をお借り致しまして
 深くお詫び申し上げます。
 新年度は会創立四十周年の記
 念の年となり、記念号の発行と
 なります。編集委員一同、一層
 の努力を致しますので、皆様方
 の更なる御指導御鞭撻、御協力
 をお願い申し上げます。



栃木県青年神職むすび会事業のご案内

—旨味を作り出す大地のちから—



『御供物』

定価 200円

- 名 称 粉末山芋
 - 原材料名 大和芋
 - 内 容 量 10g × 2袋入
- ※社名印刷は別途



『徹饅』

各定価 100円

- 名 称 粉末山芋
 - 原材料名 大和芋
 - 内 容 量 10g × 1袋入
- ※社名印刷は別途



ひとくちようかん
1箱 3本入

【お申込み先】

栃木県神社庁青年神職むすび会事業委員会

〒321-0015 栃木県宇都宮市八幡台12-24
TEL 028 (625) 2011 FAX 028 (624) 3217
(担当：堀口)



麻・鈴緒・合織α縄(注連縄)製造
有限会社 モミヂヤ
 〒328-0042 栃木市沼和田町12-14
 フリーダイヤル 0120-22-1312
 FAX 0282-22-1387
<http://www.t-cnet.or.jp/~momidiya/f-top>

広告協賛者
一覽
 ご協賛ありがとうございました

全国各神社 御用達
 栃木県神社庁


各神社のお礼お守のお手伝いをして100年

神符・神札 金閣御守 守護矢 ステッカー
 御守・木札 プラスチック守 奉書・半紙 テレホンカード
 交通安全札 ビニール守 色紙・大麻

和紙製造印刷加工

有限会社 丸井紙店

〒409-3600 山梨県市川大門町763 TEL 0552-72-0136・0762
 FAX 0552-72-3966
 ● 振替甲府6-2275 ■ 取引銀行 山梨中央銀行 市川支店①121
 第一勧業銀行 甲府支店②1612590



京都奉製株式会社

「東京営業所」東京都文京区本郷三丁目一四一
 電話(03)三三八一八一四六一
 「フリーダイヤル」〇一ニ〇一六四一二四

環境にやさしい
 おまもりをめざして

社寺建築
設計施工


株式会社 カナメ

全国支店営業所19カ所

本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 〒321-0905
 TEL 028 (660) 3831【代表】
 URL <http://www.caname.net/>

福助株式会社 足袋・和装用品代理店



株式会社 福生

〒761-8076 高松市多肥上町61-1
 堺営業所 〒590-0953 堺市甲斐町東1丁2-30
 フリーダイヤル 0120-29-0068
 フリーダイヤル 0120-29-0051
<http://www.tabiya.net/>

神祭具・御装束・雅楽器類
 結婚式場調度


(株)高善装束店
 代表取締役 桑 眞一

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-2-9
 TEL 03 (5815) 8771
 FAX 03 (5815) 8772

全国各神社御用達

神符・守札・木札・ビニール守・錦守・集印帳
 交通安全守・御守袋・守護矢・ステッカー
 奉書紙・書道半紙・画仙紙・色紙・他

創業100年 真心で奉仕する


今村紙業株式会社
 代表取締役 今村 力男

〒409-3601 山梨県西八代郡市川大門町6,237-11
 TEL 055 (272) 0514 (代)
 FAX 055 (272) 8818

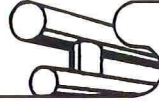
県内各神社様、工事拜命先(順不同)

日光東照宮	矢板木幡神社
日光二荒山神社	小川温泉神社
宇都宮二荒山神社	小利権崎八幡宮
真岡大前神社	佐野人丸神社
大田原那須神社	下野一社八幡宮
西那須野乃木神社	祖母井神社
氏家今宮神社	足利八雲神社
足利星宮神社	一瓶塚稲荷神社



株式会社
小西美術工芸社

〒321-1431 栃木県日光市山内2362 TEL 日光(0288)54-1198(代)
〒108-0074 東京都港区高輪1-5-22 TEL 東京(03)3447-1481(代)



神社本庁 御用達
各神社

- 交通安全御守護 ●御参拝記念品
- 開運招福鈴 ●御社頭授与品

立案調製致します。

◆技術と信用◆

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332

誠実と真心で奉仕する
御守・授与品・参拝記念奉製

御一報次第カタログ御送り致します。



グリーン産商株式会社

代表取締役 柚木 忠

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL 大阪(06)6702-6009番(代)
FAX 大阪(06)6797-5896番



祈りをかたちに

神社授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川 和夫

本社 〒114-0004 東京都北区尾島3-20-13 TEL 03-3912-6161(代表) FAX 03-3912-3131
草加営業所 〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1
TEL 0489-21-1221(代) FAX 0489-21-1515

創業130年

各種御神符・守札
その他授与品全般

湊御神符奉製所

株式会社 湊

伊勢市神宮会館前(〒516-0025)
TEL (0596) 22-2442(代表)
FAX (0596) 28-8445

宮内庁

神社本庁・栃木県神社庁・各県神社庁 御用達
全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場

株式会社 大槻装束店

東京・上野駅前

東京都台東区東上野3丁目17番9号

電話 03(3835)3201(代)

FAX 03(3835)0617

http://www.ootsuki-shozokuten.com

各授与品、記念品奉製

金欄錦守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
TEL 水戸(029)251-2051(代)
FAX 水戸(029)253-5844

カワラケ奉製専用機械の開発に成功致しました。

特別御奉仕品

素焼き
かわらけ

単価 50円

表面には神社紋・神社名
裏面には神社角印も入ります。

※見本をお送りします。カタログをご請求下さい。

神具関係
各種一式

合資会社 可児商店

代表取締役社長 可児 安一
愛知県瀬戸市共栄通り5-5
TEL 0561-83-3674(代) FAX 0561-82-4261

創業90余年の御信用

おみくじ機

おみくじ

製造販売

(有) 女子道社

〒745-0302 山口県都濃郡鹿野町
TEL 0834-68-2001
FAX 0834-68-2958

神社は神社暦を!

少部数からお受け致します。
ご注文、お待ち申し上げております。

日本造暦協会

日本神社暦編纂会

有限会社 神明館

〒102-0071
東京都千代田区富士見2-2-16
☎ 03-3262-0778 ☎/FAX 03-3261-9365

神輿・太鼓・神具

製作直売 (カタログ進呈)

1尺8寸、2尺、3尺、4尺、ダンジリ、
その他何でもご一報下さい。

大阪府神社庁御指定・徳島県神社庁御指定

有限会社 青山みこし店

本社・工場 徳島市春日1-2-19 〒770-0002
TEL (088) 632-1456・FAX (088) 632-7424

創業三百年の伝統

宮内庁・神宮司庁・神社本庁 御用達



装束・調度・御神輿・雅楽器・
舞楽衣裳・授与品・稚児衣裳

〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
本店 フリーダイヤル☎0120-075-980
授与品部/本店 フリーダイヤル☎0120-075-980
東京店 フリーダイヤル☎0120-075-980
福岡店 フリーダイヤル☎0120-075-980

全国で初めて!! 特殊洗浄の技術

一安価で新品に変わる御翠簾と神具一
(御翠簾、御三宝、八足案、外祭案等の洗浄)

有限会社 瀧 澤

〒168-0065 東京都杉並区浜田山4-15-13
TEL 03-3317-2081(代)
FAX 03-3317-2055

尚、御新調も承っております。御気軽に御相談下さい。

社頭授与品専門奉製所

(主要奉製品意匠権所有に付、侵害厳禁)

常陸神宝(株)

〒310-0067 水戸市根本1丁目53-4
☎ (水戸) 029 (277) 0511 (代)
FAX (水戸) 029 (227) 0512

神社仏閣奉製品メーカー

(有) と き わ 奉 製

水戸市河和田町419
TEL (029) 251-1421(代)
FAX (029) 251-1608

営業品目

縁起物入おみくじ・金属製守・木札守・紙札守
金欄錦守・各種熊手、守護矢・朱印帳

おまわりの奉製

株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県下都賀郡藤岡町藤岡213-7
TEL (0282) 62-1010 (代表)
FAX (0282) 62-2061

営業種目

神職装束・神楽装束・稚児装束・時代装束・祭器具
調度品・神輿・鳳輦・御台車・記念品類各種
染織品各種・室内装飾調度・袋物・御家庭用御宮・御霊車

創業寛永年間
宮内庁御用達



(株)高田装束店

東京都千代田区九段南3丁目9番4
〒102-0074 TEL. 03 (3261) 1201・9602
FAX. 03 (3262) 1789

近畿日本ツーリスト

宇都宮支店

〒320-0801 宇都宮市池上町2-2 中村第一ビル1F

☎ (028) (633) 2151 (団体)

☎ (028) (633) 2141 (個人)

一般旅行業務取扱責任者 野崎佳政

御装束、祭典用具、結婚式場設備、
舞楽装束の御用命は

宮内庁・栃木県神社庁御用達

森装束店

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目7番21号
電話 東京 (03) 3376-4631番

神仏具 銅・胸像 その他 製作施工



(株)平和合金

〒939-1118 富山県高岡市戸出栄町56-1p
TEL 0766 (63) 5551
FAX 0766 (63) 5131
ホームページ www.heiwagokin.co.jp

授与品奉製

伊勢の



株式会社

神路社

☎ 516-8611 伊勢市岩濑二丁目5番29号(私書箱26号)
TEL (0596) 24-5858(代表)
FAX (0596) 24-5110

カザリシ

社寺専門店(御用達・鋳師)
屋根銅板葺 飾金具工事

有限会社

カザリカナグ

鈴木鋳金具工芸社

〒321-1412 栃木県日光市東和町57-1
TEL 0288 (53) 1121
FAX 0288 (54) 3263

絵馬・御札・神社授与品専門店



株式
会社

晃栄商会

代表取締役 小杉高士

〒321-1421 栃木県日光市所野1388番地
TEL 0288(53)4186 FAX 0288(53)4488

信頼のおける確かな技術と美しい仕上がり

中津印刷所

代表取締役 中津己代治

〒321-1406 栃木県日光市松原町320-1
TEL 0288-54-1529
FAX 0288-53-0850

